

大鹿村中央構造線博物館たより 173号



2023年10月発行

TEL: (0265) 39-2205
staff69@mtl-muse.com

鹿塩温泉に関するよくある質問

最近、よく鹿塩温泉に関する質問を頂きますが、なかなか簡潔に回答できないものが多く、この紙面をお借りして、記しておきたいと思えます。もっと詳しく知りたい方は、博物館で販売中の2013年の風早康平さん講演記録「鹿塩温泉の水と塩はどこから来たのか？」を読んでみてください。(宮崎)

Q 1 : 鹿塩温泉の源泉温度は冷たいのに、温泉とって良いのですか？

昭和23年に制定された「温泉法」によると、温泉とは、地中からゆう出する温水、鉱水及び水蒸気その他のガス(炭化水素を主成分とする天然ガスを除く。)で、

- ①温泉源から採取されるときに温度が摂氏25度以上
- ②規定の物質(リチウムイオンほか、全19種類)のうちいずれか1つ以上を規定量以上含有するのいずれかを満たすものと定義されています。鹿塩温泉の源泉は、10℃～15℃くらいのもので、①は満たしませんが、②を満たしているため、**「温泉法」の定義に従えば、温泉と言えます。**

ただし、ややこしいことに、「温泉法」とは別に、環境省の制定する行政指針「鉱泉分析法指針」の中でも、温泉についての定義がされています。「鉱泉分析法指針」では、「温泉法」で定義するところの温泉のうち、水蒸気・ガスなどの気体を除いたものを「鉱泉」と定義し、かつ、温泉源から採取されるときに温度によって、

- ①冷鉱泉▷25℃未満
- ②低温泉▷25～34℃未満
- ③温泉▷34～42℃未満
- ④高温泉▷42℃以上の4種類に分類しています。こちらの分類からすると、鹿塩温泉は、**①冷鉱泉**ということになります。

Q 2 : 鹿塩温泉の水の供給源は？

一般に、温泉の水の供給源は主に以下の4通りがあります。

- ①雨や雪、海水が地中にしみ込んだもの。
- ②古い地層に閉じ込められていた水。もともと海水のものは、化石海水と呼ばれる。
- ③マグマから放出された水
- ④地下深くに沈み込む海洋プレートから絞り出されて、上昇してきた水。

鹿塩温泉は、④のタイプの水です。大鹿村の地下35kmのところにあるフィリピン海プレートから絞り出された水が、地表に上がってきていると考えられています。④のタイプの温泉は、兵庫県の有馬温泉にちなんで、有馬型温泉と称されます。

Q 3 : 鹿塩温泉の水は何年前の水？

一般に、海洋プレートは、プレート生成時、もしくは、プレートが海溝から沈み込む直前に、海から水を取り込み、地下深くに沈み込むにつれて、水を放出すると考えられています。

プレート生成時に水を取り込んだと仮定した場合、大鹿村の直下に沈み込んでいる部分のプレートが生成されたのが2000万年前頃と推定されることから、**2000万年前頃の水**ということに

なります。プレートが沈み込む直前に水がとりこまれたと仮定した場合、南海トラフから大鹿村までの距離を約150km、沈み込み速度を約4cm/年として計算すると、およそ400万年前頃の水ということになります。

ただし、温泉水に含まれる塩分については、もとの海水に含まれていた塩分なのか、それとも途中で岩石と反応したりして含まれたものなのかは、まだはっきりしていません。

エコパークスキルアップ講座 第7回 木に名札を付けよう!

講師：蛭間啓さん(ひるま植生salon代表)

今回は、今まで調べてきたマップと目印をもとに、講師の蛭間さんに確認していただきながら名札を書いて取り付けます。木の見分け方も教わります。名札を付けるのは、道路に近いところですが、斜面を上り下りします。

日 時：10月27日(金) 午前10時～午後4時
集合場所：中央構造線博物館 午前9時40分集合
持ち物：昼食、飲み物、歩きやすい靴と服装、雨具
申込先：中央構造線博物館 ☎0265-39-2205
申込締切：10月26日(木)
参加費：無料
主催：大鹿村中央構造線博物館
共催：大鹿村公民館



大鹿村中央構造線博物館30周年記念イベント Vol.2

高木秀雄先生講演会 南アルプスジオパークのジオサイトと中央構造線



日 時：11月3日(金・祝) 午後1時30分～3時
会 場：大鹿村交流センターホール
主 催：大鹿村中央構造線博物館
TEL. 39-2205
<https://mtl-muse.com>

参加無料
申込不要



2008年、伊那市の旧高遠町・長谷村エリア、大鹿村全域、飯田市の旧上村・南信濃村エリアは、南アルプス(中央構造線エリア)ジオパークに認定されました。今回のイベントでは、長年中央構造線の研究をされ、日本地質学会ジオパーク支援委員会委員としてジオパークの普及活動にも尽力されている早稲田大学教授・高木秀雄先生に、南アルプスジオパークのジオサイトと中央構造線についてお話していただきます。